

令和3年度 第1回総合教育会議 議事録

日時：令和3年7月2日（金）10：00～11：50

場所：佐世保市役所5階 庁議室

出席者：朝長佐世保市長、西本教育長、中島教育長職務代理者、内海教育委員、萩原教育委員、古賀教育委員

事務局：山元教育総務部長兼新しい学校推進室長、松尾総務課長、杉本社会教育課長、山口文化財課長、嶋田スポーツ振興課長、副島総務課長補佐陣内学校教育部長、高島教育次長兼学校教育課長、有富学校保健課長、久野総合教育センター長兼総合教育センター課長、近藤青少年教育センター所長

【議事録】

【朝長市長】

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、日頃から本市教育行政の発展に向け、日々ご尽力いただいておりますことにまずもって厚くお礼申し上げます。

総合教育会議では、私の考え方と教育委員会の皆様の考え方を調和させ、有効に活用する場として開催させていただいております。

さて、先の6月議会におきましても、教育に対する関心度の高さを示すように、6人の市議会議員の方から一般質問があったところでございます。内容も、学校や教育施設の整備に関するものや、放課後児童クラブにおける学校の活用の質問、教職員の働き方改革に関するものや、学校教育におけるシビックプライドの育成、あるいは学校における新型コロナウイルス対策に関する質問など、幅広くお尋ねされたところであり、教育委員会として一定の回答をされたところでもあります。

このように、教育行政は、常に市民から注目を集める部門であり、その施策のあり方、方向性は常に共有する必要が高く、私と教育委員会の皆様共同で取り組んでいくことで、よりよい佐世保の教育が実現できるのではないかと強く感じているところであります。

本日は、本年1月の中央教育審議会答申により示されました「令和の日本型学

校教育」という大きなテーマの中で、まず「教育のこれまでとこれから、問題点と方向性について」という視点から、これまでの振り返りや課題などについて、次に、そこから佐世保市として「今後の佐世保市の教育に望まれること」について、それぞれの専門的なお立場からご意見を伺い、今後の本市の教育の在り方についての認識を深めてまいりたいと思います。

本日は、短い時間ではありますが、次代を担う子どもたちのため、また、今後の佐世保の教育の更なる発展に向け、有意義な会議となりますよう、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【松尾総務課長】

ありがとうございました。

それでは、ここから議事に入らせていただきます。

ここからは、主宰者であります朝長市長の進行でお願いいたします。

【朝長市長】

それでは、ここから私の進行ということで進めてまいりたいと思いますので、今日もよろしくお願い申し上げます。

本日のテーマとしては「令和の日本型学校教育」について考えるとし、次の2点、まず「教育のこれまでとこれから。問題点や方向性について」、もう1点が「今後の佐世保の教育望まれること」ということを準備いたしております。

それでは早速、「教育のこれまでとこれから、問題点や方向性について」議論をしたいと思います。

まず、内容の説明を教育委員会事務局のほうから、お願いしたいと思います。よろしいでしょうか。お願いいたします。

【松尾総務課長】

改めまして、教育委員会総務課の松尾でございます。よろしくお願いいたします。

正面のモニターのほうに資料のほうを映させていただいております。それから、皆様のお手元のほうにも、タイトルが「令和の日本型学校教育について考える」という資料をお配りしております。同じものでございます。ちょっと今、正面のモニターが見にくくなっておりますので、どうぞお手元の資料にて御確認をいただければというふうに思っております。

資料のほうを1枚めくっていただきまして、令和の日本型学校教育といいますのは、今年の1月26日に文科大臣の諮問機関であります中央教育審議会の答申として示されたものでございます。

答申のタイトルとして「令和の日本型学校教育の構築を目指して、全ての子供

たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現」ということで、答申が行われているものでございます。

この答申の中で、今後の社会の理想といたしまして、こちら2ページ目の資料に書いております「誰一人取り残すことない、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」という大きなテーマが掲げられております。

持続可能な社会のつくり手を求める我が国を含めた世界全体でSDGs等の取組をしている中、ツールとしてのICTを基礎としつつ、日本型学校教育を発展させ、2020年代を通じての実現を目指すということを大きなテーマとして掲げられているものでございます。

この中で、従来の日本型学校教育を発展させていく中で反省すべき点、従来日本型の学校教育で見直す点は見直す、さらにいい点は発展させましょうということで、具体的に示されているものが、矢印の下にございます三つでございます。

一つ、今後見直しを進めるべきだと中教審の答申でなっているものについて、正解主義や同調圧力の偏りからは脱却するべきではないか。さらに、いい面といたしまして、授業において子供たちの思考を深める発問を重視しているこれまでの教育については、さらに発展させていきましょう。さらに、一つのチーム、目標を共有し、活動を共に行う集団としての学びを高めていく。これは恐らく、運動会等の学校教育の現場の動きを指したものだと思えますけども、そういったいい面、悪い面を考えつつ、悪い面は見直し、いい面については発展させようということが、中教審の答申で示されているものでございます。

次の3ページをお開きください。

この中教審答申のほうで、非常に重要なコンセプト、最初のタイトルにもございましたけれども、示されているものでございます。

学校教育の中で実現すべきだということを二つ示されています。

一つが個別最適な学び。佐世保市でも昨年1年間で1人1台端末の整備が終了しました。今年の4月からは、全ての小中学校におきまして、一人一人の児童生徒が端末を持って授業に取り組んでおります。

この特徴といたしましては、各個人の習熟度に応じた学習が今後実現する可能性があるという点でございます。さらに、中教審答申のほうでは、障害児等の特別支援教育のほうにもさらなる配慮が必要だとされておりますし、インクルーシブ教育のほうも発展させ、学校の中で、特別支援を有する子供たちの支援に当たりたいというふうに述べられているところでございます。

さらに、下のほうにあります協働的な学びでございます。主体的で対話的で深い学びの実現を学校教育では求められていますので、みんなで考えて、何かの結論、成果を出していくという学びが重要だとされております。

この個別最適な学び、それから協働的な学びを実現することによって、最終的

には主体的・対話的で、深い学びの実現に向けた授業改善につなげていくというのが大きなテーマになっているところでございます。

4ページをお開きください。

この個別最適な学びと協働的な学びを実現するための改革の方向性として6点が示されています。

1点目が、学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する。

2つ目としてさらに、連携・分担による学校マネジメントを実現する。

3つ目に、これまでの実践とICTの最適な組合せを実現する。

4つ目に、履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる。

5つ目に、感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障していく。

6つ目に、社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する。

この6点を掲げておまして、この6点に対する改革を今後、学校教育を中心に進めていくべきじゃないかということで答申のほうが行われているものでございます。

この6点の改革を進める中で、令和の日本型学校教育があるということで、中教審答申のほうでは示されているところでございます。

事務局からの説明は以上でございます。

【朝長市長】

ありがとうございました。

教育委員の皆さんのそれぞれのお立場からの思いや考え方というものをお持ちだと思いますので、委員の皆様の御意見をお聞かせいただきたいと思います。

順次、お願いさせていただきたいと思います。

まず、学校教育の視点による意見ということで、中島委員のほうからお願いいたします。

【中島教育長職務代理者】

皆様おはようございます。今日はよろしくお願いたします。

今回、令和の日本型教育を考えるという壮大なテーマで、これに私が口火を切る形で、そういう役割になっておりますけども、何を話そうかと悩みに悩んでいるところなんです。いかんせん、見識が浅く引き出しが少ない人間ですので、唯一学校の教員をやってきたという経験等から、これからの学校という組織のありようについて、願いの一端を述べさせていただきたいと思います。

近年、教職員の働き方改革が声高に叫ばれているところですが、残念ながら、長時間労働削減というのが教職員の働き方改革の代名詞になってしまっている感があります。もちろん、長時間労働は改革の中でも重要課題です。しかしながら、そもそも働き方改革の目指すところは、そこで働く一人一人が生き生きと働ける職場、一人一人が能力を発揮できる職場となることで、教職員の健康や福祉

の向上はもちろんのこと、先生方の付加価値が引き出され、結果として生産性が高まる、すなわち子供たちへの教育の充実につながるためのものです。

教育委員という立場上、いろんな先生や保護者などから話を聞く機会が多くなっているんですけども、今の学校はあまりにも多忙感という言葉があふれていると感じています。今はコロナ禍ということで、直接対面する機会は少ないと思いますが、近年、保護者や地域の方々の学校に対する期待というのは膨らむ一方ではないかと感じています。

加えて、子供たち、保護者、あるいは地域の方々の考え方、価値観等の多様化によって、問題そのものが広がり、広範囲化して見えなくなる、SNSの問題等があつて、潜在化、そして複雑化していて、一つ一つそれぞれに対応するエネルギーが非常に大きくなっていくということです。

養護児童対策児童生徒対策地域審議会、いわゆる養対協というのが機能していますけども、タイムリーに、臨床心理、社会福祉、法律等の専門家に委ねなければならない事例が急増している状況です。さらに、昨年からずっと続いておりますコロナ拡大防止対策関連に係る日常的かつ突発的な業務というのは、もはや決定的です。

教育というのは無限、教員は有限です。学校には本来教員が担うべき業務以外に、学校の業務ではあるが、必ずしも教員が担わなくてもよい業務や、基本的には学校以外が担うべき業務も結構あります。

ただ、現実的には、これらの業務の大半を教員が担っている現状です。

学校には、やりがいを感じて、子供たちのために、自己犠牲をいとわず、時間外があつても、献身的に職務を果たすという昔からの教員文化がまだまだ残っております。2017年、4年前ですが、大手の民間の企業が行った全国規模の調査によりますと、教職員の81%が忙しいと感じながらもやりがいがあると感じております。一方で、忙しくないがやりがいがあると回答したのは6%にすぎないということで、まさに教員の仕事というのは、やりがいはあるけども忙しいというのはもう定説になっている感があります。

幸い、本市ではこうした状況を打破するために、独自に、業務改善アクションプランというのを作成していただいて、成果目標を掲げ、そのための具体的方策を学校と一体となって積極的に講じておられます。

結果、教職員の意識改革も進み、その成果も着実に出てきており、今後の推移も非常に期待をしているところです。

いかに人を増やし、いかに仕事を減らすかが鍵になってくると思いますが、いかにせん学校には人手が足りません。先週、議会の橋之口議員の一般質問にありました、チームとしての学校組織の体制強化を図るためには、教員以外の様々な専門家、多くのスタッフが必要です。

幸い本市には、これまでに本当に、市の御理解もありまして、市単独で予算と多様な職種の人種を豊富に配置していただきまして、大変恵まれておると感じておりましたが、今回、取り上げていただきましたスクールサポートスタッフというのは、学校にとっては力強いメンバーになっています。先生が子供たちと向き合う時間の確保に直結するものだと思います。

今後の学校教育というのは、時代や社会情勢によって変化し、その時代に合った形に最適化していくことが求められます。

よく言われる、改革は若者、よそ者、ばか者から始まると言われますけども、これからのチーム学校も、この営みに携わる全ての多様なスタッフが知恵を出し合って、ICTやAI等を最大限活用して、常に柔軟な姿勢を持って、オープンマインドで向き合っていくことが大切ではないかなと感じております。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、一通り全委員の皆さん方の御意見を聞いてから、教育長、私ということにしていきたいと思いますので、次は、経営者の視点による意見ということで、内海委員のほうからお願いいたします。

【内海教育委員】

おはようございます。

自立した生徒の育成というのは、私の頭の中からはあっと浮き上がってきました。どうしてそういう考えに至ったかですけども、時代背景をちょっと考えてみたんです。自分が生まれた昭和、それから40前後で平成、それと令和。自分が小学校、中学校、高校を佐世保で教育を受けましたが、とっても緩やかに流れていたような気がします。全てが何か平和感というか、両親が一生懸命仕事をして、その背中を見ながら、何か自由伸び伸びにゆっくり勉強できた。それだけ世の中の流れがゆっくりしていたのが、平成に入って、本当は平成前ぐらいからでしょうけども、コンピューターというのが出てきて、画期的にいろんなものが進化しているように見えるけれども、子供にとって果たしてどうなんだろうかと。すごい勢いで、昭和の25年、30年ぐらいからすると、その川の水の流れは激流に近いぐらいに、すごい勢いで来ていると。その中で、これから5年、10年、15年たったらどうなるかといったら、もっと激しい時代の変化が出てくる。そのときに、子供たちに絶対に身につけてほしいというのは、やっぱり自立した人間、自立した大人に成長することが絶対必要じゃないかなと思いました。そのために何だろうと思ったときに、よく運動で心技体と言いますが、私は、知徳体、知育・徳育・体育、この三つを浮かべました。

一番大事なのはやっぱり基礎学力だと思うんです。この基礎学力を指導する

ために、学校の先生方がいらっしゃる。基礎学力。その基礎学力の中で、何が一番大事だろうと思ったとき、私は本を読むということがとっても大切だと思う。

教育委員になって、学校の現場をずっと見させてもらって、必ず図書館があります。図書館があるのが当たり前。しかし問題は、その図書館の中身を見たときに古いなど。新しいがないなど。もちろん佐世保市の図書館に行くと、新しいのがあるんでしょうけども、それでも全体のいろんな予算からすると、かなり厳しいなどということを感じます。

私改めて、2月の1日から自分にテーマを決めて、1日40分本を読むというテーマを決めました。昨日現在で、32冊本を読みました。読んで改めて、いい本もあるし、悪い本も、いろんな本があります。しかし、自分の71歳の私の頭の中に、どんどん入ってくるんですね。やっぱり本はすごいということを感じます。

だから、子供たちに本を読むことの楽しさ、本を読むことでの創造力、本を読むことでの深い知識というものを習慣化するという場を与えていきたいなと思いました。

例えば、ビブリオバトルというのがあるんですけども、自分が読んだ本を5分に簡潔にまとめて、この本のすばらしさというのを発表するんですね。佐世保市の図書館が全国で、去年かな、表彰を受けたと思うんですけど、私も、子供たちが発表するのを見せてもらって、これいいなど、こういうのをもっともっと各学校でやって、佐世保市が全国の中で一番取り組む事業で、これをやることで子供たちが本を読むことの楽しさとか、面白さを見つけていくんじゃないかと。

その知育、それに必要なのは、私は民間の力だと思ってます。

何が民間の力かというとお金でございます。市に予算がないのであれば、民間の佐世保で起業している佐世保の経営陣が、もっともっと子供たちにそういうチャンスを与える、寄附を何か、私は教育委員が終わった後にその活動しようかなというふうに思っています。

そこで、もう一つ大事なのが徳育、佐世保市を抱えている徳育。頭でっかちじゃいけないんです。やっぱりこのハートの部分が温かくないといけないので、それってどうやって身につくんだろうかって思ったときに、やっぱり体験かななど。

例えば、私は小学校、中学校、今でも覚えているんですけど、映画に連れて行ってもらったんですよね、授業の合間に。そのとき見た映画というのは、黒澤明であったり、「ベン・ハー」であったり、今振り返るとその映画が今でも自分の中に生きている。だからすばらしいその心とか人間愛を表現する出会いが一番いいんでしょうけど、出会いの前に、そういう世界があるんだというのは、私は映画を鑑賞させるとかいうことでもいいでしょうし、もっといろんな体験をした社会人から、その体験を聞くと。

高校には、人生達人セミナーというのがあるんですけども、小中学校にはあまり聞かないんですが、身近にいる、例えば早岐小学校を卒業した社会人に話をしに来てもらって、自分の体験を通して、道德の大切さ、つらかったこと、うれしかったこと、愛を感じたこととかの体験談を子供たちに話していく。道德教育はすごく心を育ててくれるんじゃないかなと。その学んでいるときには子供たちは分からないかもしれないけども、インプットする場を与えていくということを考えてみました。

体育が難しいですね、好き嫌いがありますから。運動の場を与えても、積極的にやる子とそうじゃない子。運動会もそうですけど。

であれば、この体育にもう1つプラスアルファ、私は、日本のアイデンティティというのはやっぱり武道であり、それから茶道であり、この日本のアイデンティティを表すような、そういう何かこう体育という場があれば。

そうすると、それを学校の先生方をお願いするというよりも、地域——働き方改革で、実は残業をもっともっと減らしていくという方針で、それについて私は異論はないんですけども。であれば、子供たちは時間ができるわけで、その子供たちが地域の皆さん方も巻き込んで、子供たちを育てていくという切り口からいくとこの体育というのは、サポートできるんじゃないかなと思いました。

最後に、もう一つは英語の話なんですけど、当然、知育の中に入ってくると思いますが、英語がしゃべれる必要性はもうみんな思っていると思います。

私も今、英語を勉強しようと思って、インターネットでいろいろ調べたら、結論に至ったのは、英語を本当に身につけたかったら、1,000時間集中的に勉強しろと書いてありました。やっぱりそうなんだと。一番いいのは、英語圏のところに自分の身を持って行って、とにかく半年間みっちり英語漬けにしていくと、自然と英語ができるようになる。

しかし、そういう環境を子供たちに持たせるというのは難しい。難しいけども、短期留学は可能性が、英語をもっと勉強しなきゃとかというのに気づいて、高校であったり大学であったり、その選択の中にこのグローバルな構想を自分は目指していこうとかいうチャンスの方が与えられたなと思います。

じゃあどうやって子供たちを短期留学させるか。どうも来年までは海外旅行が無理みたいです。しかし、2023年以降は少しずつ海外にも行けるようになるんじゃないかなと思っています。であれば、ちょうど今から準備して3年か5年先にそういうプログラムがあると、佐世保の子はさらに成長してくれるんじゃないかなと思いました。

自立した生徒を育成するための考え方を話しさせていただきました。

ありがとうございました。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、地域代表者の視点ということで、萩原委員お願いします。

【萩原教育委員】

おはようございます。

今の内海委員の御意見を聞いていて、年齢が近いせいか、ほとんど同じようなことを考えていたと思ひまして、どうしようとも思ってるんですが、私の思っていることを発表させていただきます。

令和の日本型学校教育ということで、この実現のためには、学習指導要領の確実な実施が必要であるというふうに書かれていました。ちょうどそういうときに本を読んでいたら、校長先生を退任されたある方が、我が国の義務教育は、10年に1度の学習指導要領改訂でコロリと変わるほどやわなものではなく、牢固としてその伝統を保つ。その上での、GIGAスクールであり、自主的、対話的な深い学びであり、プログラミングなのだというふうに書いてありました。

それと、また、学習指導要領の改訂を巡っては、変わる部分ばかりに目が行きがちだけど、変わらぬ部分もしっかりと踏まえていく必要があるんじゃないかなというふうに書かれていました。

なるほどねと。ICTとかそういうことばかりに目は行きがちだ——とても大切なことなんですけれども、ずっと日本に続く、それこそ知と徳と体、それ全部が一体となった全人的な教育、そこら辺をしっかりと見据えておく必要があるんじゃないかということが書いてあったんで、本当にそうだなあと。

そして、順々と続いていく日本の義務教育のすばらしさ。どこに行っても皆がしゃべることができる、書くことができる、読むことができる、そういうふうな当たり前なんだけれども、すばらしいことに、また再度、気がつきました。

日本型教育の知と徳と体を一体で育む、全人的な教育の変わらぬ部分として、どうあって欲しいかなということを考えたときに、やはり、私も、それぞれの子供の能力をしっかりと伸ばしていただきたい。ある程度できる人もたくさんいるし、難しいなという子供さんの集団の中で、みんなそれぞれの子供さんに応じた伸びができたなら、それはすばらしいことだろうと思います。

それで、ICTを今度活用することになれば、さっきおっしゃった学習の取組状況とか、個別の習熟度、そういったものを把握して、子供たちに対応できるので、伸びる子は伸びる、分からない子はどこが分からないかがちゃんと指摘できますよというふうに書いてあるのですが、実際に授業の中で、どういうふうにそれが実践されていくのか、ちょっと私にはなかなかイメージできないので、今後の学校訪問で授業を見るのをとても楽しみにしております。

それと、覚えるべきことはもうしっかり覚えさせてほしい。記憶だけでは駄目という教育もありますけど、記憶せねばならないことがあって、それが分かって

いないとその上に行くことは、深い学びができるとは決して思えないので、絶対に覚えるべきこと、そういうことはもう徹底的に覚えさせていただきたいなと思っております。

それと、さっき市長さんがシビックプライドとおっしゃいましたけれども、日本人ですから、日本の歴史、それから、言語・文化・伝統、四季の感じ、そういったものは、家庭の教育にも影響はするんですが、そういうこともしっかりと子供たちに今後教えていっていただきたいと思っております。

それと、子ども教室なんかで子供を見ているときに、粘り強さというか、そういうものが少し減っているんじゃないかなと感じることがありました。

ちょっと工作とかをさせて、難しいことがでてくると「先生分かりません」「できないからやって」「全部して」とか、そういうふうに結構すぐ諦めてしまうみたいなことが目につきました。学問をすることで、一番必要なのは粘り強さだと思いますので、何とかしてこれが粘り強く、何かに取り組んでいくということができないかなというふうに思っております。

それと、徳の部分が私も大切だと思っております、最近の事件を見ると、経済産業省の者までもというふうな、あ然とするようなニュースがたくさんあって。悪いことばかりがニュースに出て、よいことは出ないので語弊はありますけれども、人としての生き方、社会のルールとか規範意識、そういったものはしっかりと、これも家庭で教えるべきことなんだろうと思うんですけども、家庭の教育力にちょっと問題があるということになれば、学校と家庭と両方でしていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに考えております。

それと、体力。今、私の家から小学校のプールがよく見えるんです。本当にうれしくてたまりませんというような声で号令をかけたり、最後の御挨拶をしたりと力いっぱい頑張っています。

日本の教育は、泳ぐことも教えてくれるんだっただねと思って、それこそすばらしさを感じているんですが、子供の体力はやっぱり下がっているという統計はございますので、何とか、冬のマラソンとか、そういうことを中学校、高校になればするけど、小学校でも、学校訪問したときに、お昼休みに今日は何週走りましたと。どんどんどんどんそれが大きくなって、子供の競争になって、いっぱい走っているというようなこともあったと思いますので、子供が学問をするときにやっぱり精神と体力と粘り強さというのは絶対に必要だと思いますので、その辺のところも力を合わせていかなきゃいけないんじゃないかなと思っています。

何を取っても、家庭と学校と両者でしないといけない。家庭の比重が大きいところもたくさんあるんですけど、なかなかそれが最近はうまくいかないというのが大きな問題ではないかなというふうに思っております。

以上でございます。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、保護者の視点ということで、古賀委員お願いいたします。

【古賀教育委員】

皆さん、おはようございます。よろしく申し上げます。

私は先に3人の委員の方が述べられた、そのとおりかなと思うところもたくさんありますので、それ以外の部分でお話しできればと思います。

まず、三つお伝えしたいことがあるんですけども、全学校に図書司書の先生を配置というのを常々願っております。司書の先生がいる日といない日では随分子供たちの様子も違いますので、すごく影響力がある先生じゃないかなと思っております。先ほど内海委員も述べられましたけれども、書籍で得る情報で子供自身が調べて、学べる環境整備というものを充実していってもらえればと思います。

あとは、2番目に保・幼・小連携をぜひもっともっと充実させていただければと思います。今は「まどか教室」と「ことばの教室」は、どちらか片方にしか入れないというというルールになっておりますけれども、子供たちの様子を見ておりましたら、言葉の教室での学びも必要ですし、まどか教室でのコミュニケーションとかの学びも、両方必要なのになと感じられるお子様も中にはいらっしゃいますので、これもどうか併用ができないかなと考えております。

また、まどか教室に通わせることが、お仕事でちょっと困難な御家庭の方とかは、住んでいらっしゃる地域の校区じゃない学校のほうに手続をされて通われているというお子様も聞いたことがありまして、学校の中にまどか教室があるところは、保護者のお迎えなしで、そのまま教室から教室に行くことができますので、そういうニーズにも、保護者様は今忙しい方たくさんいらっしゃるので、どうかして、子供の支援のために、子供が学べる環境というのを整えてあげられたらいいかなと思います。

また、三つ目は、私自身も幼児教育や学童保育に携わらせていただいております。同じかどうかはあれですけど、教育者としての視点として、子供たちにとっても環境整備というのは大事だなと思っております。その中でも、やっぱり一番近い先生というのもやっぱり環境の部分になってくるのかなと思います。先生自身の資質というか、スキルアップというのもどんどんしていただいて、市長も先ほど、教育には正解があるのかなのか、ととても見えにくいというふうにおっしゃっていただきましたので、見えにくいからこそ、先生たちの力というのは子供たちに対してとても大事な部分になってくるのかなと思っております。

以前、実は人間の脳も機械のように進化してハイテクになっていっているん

ですよ、子供たちはできないんじゃないで、それを引き出せてあげない大人たちがいるのではというお話を聞いたことがありますので、やっぱり子供たちの無限大の能力をいかに大人たちが引き出させてあげられるかというのを考えていければなと思っております。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

4人の委員にそれぞれ御意見をいただきました。

教育長、これらの御意見を踏まえて、教育長の考え方ということを含めて、御意見いただけますか。

【西本教育長】

改めておはようございます。

それぞれ御意見いただきまして、ありがとうございました。

今日の議題が、令和の日本型学校教育という非常に大上段に構えた大きなテーマでございましたもので、私も選んだほうとしては、心配をいたしておりましたが、それぞれに具体的な提案もいただきながら、本当に実のある御意見をいただいたと思っております。

日本の元号の便利さは、昭和、平成、令和と。西暦でいきますとくくりがあんまりない。今までは、戦前・戦後という言い方もしておりましたけども、それからもう70年以上たちまして、なかなか区切りを表現するような言葉はないんですが、そういった意味では元号とは非常に便利だと思っております。

やはり、令和というふうな新しい元号を迎えることによって、気持ちが何か変わったような気もします。実際に教育の在り方もこの1、2年で大きく変わろうとしているのではないかというふうに思っております。

中教審が出された、この令和の日本型教育、学校教育ということを少し読み解くと、平たく言えば、日本の教育の強みと弱み、こういったものを引き出して、強みを伸ばし、弱みを克服していくということかなあというふうに思っています。

強みというのは全人的な学びで今までやっておりました。これが強みだと思えます。例えば教科を先生が指導する。それから生徒指導もやる。部活動も指導する。はたまた、学校の中で授業の研究もやる。そういったことを学校が一体となってやっていただいているというのが日本型教育じゃなかったかなと。これは欧米にはない学校の形であるというふうに思えます。

よく映画を見ましても、学校が終わるとすぐみんな帰ってしまって、部活動をするような場合というのは、なかなかアメリカ映画なんかに出てこないなというふうな気がしていますが、日本は、夜までライトをつけて、野球部なんか練習

するという、それも先生も一体となって、土日も一生懸命練習試合に行くというふうな、本当に学校一体となってやっただいていてというのが日本の教育の強みじゃないかと私は思っています。

一方で弱みもございまして、中島委員もおっしゃったように、あまりに教員に負担がかかり過ぎていると。働き方改革をどうかしなければならぬというふうに言われるぐらいに、厳しい労働条件になってきておりますし、それが端的に教員の採用試験の応募数の減少につながっていると。そういった2倍を切るというとんでもない数字になってきている。ある意味、ブラック企業の一步手前というふうに言われるようになってきている。これが日本の教育の弱みの部分ではないかというふうに思っておりますので、この弱みを令和に入ってドラスティックに変えていく必要があるんじゃないかということではないかなと思っています。

具体的に言うと、先ほど一人ずつお話をいただきましたが、働き方改革について、専門スタッフの活用という話も中島委員のほうからいただきました。

今、スクールサポートスタッフをはじめとして、いろんな学校にスタッフがいらっしゃいます。心の教室相談員、スクールソーシャルワーカー、学校司書もそうですが、そういった方々が先生方と一体となって、先生の足らざるところを補いながらやっていただくという仕組みにしていくということで、先生の負担を軽減していくということが大事じゃないかというのが、チーム学校として今言われているところでございます。

それから、内海委員が言われたように基礎学力もそうです。読書、本を読む力。これも学校司書さんの力が物すごく大きくて、貸出し冊数も、本当に飛躍的に伸びていることは、学校訪問のときに必ずお聞きになられるので、どれぐらい伸びましたかと。ここ3年間、4年間でいうと、2倍、3倍という学校もありますし、先ほども、ある学校は文部科学大臣表彰を受けたりして、やはりデジタル化、パソコンを持っていても活字でもって読む。そして、どういった本を読んでいるのか分からないというときには、昔は日本文学全集とか世界文学全集を読めばいいという時代から、ありとあらゆる本が出てきている。子供に適切な本を誰が選ぶのかということになりますと、やっぱり学校司書さんが非常に大きな力を持っていて、くだらない本とは言いませんけれども、もっとほかに読む本があるんじゃないのという本もあると思うんです。やっぱり心を動かすような本を学校司書さんに選んでいただいている。それをたくさん読むということでもって、心の面からも大きく子供たちが成長していくんじゃないか。読書は、本当に基礎学力、算数であろうが何であろうが書いてあることを理解できなければ解けないということですから、こういう力は物すごく大事だというふうに思っております。

それから地域の力を巻き込むこと。やっぱり開かれた学校ということから共にある学校ということで、地域の力をどんどん取り入れていくのは必要だなというふうに思っております。

英語の話も出ました。英語も今、リーディングプロジェクトの一つとしてやっておりますが、なかなか、全体2万人の子供たちと一緒に上げるというのは、非常に厳しいなという感じがいたしております。やっぱり使わないといけない。

短期留学の話もありましたけど、例えば、AIが発達していますから、要するに今、会話ができるパソコンになってます。「元気ですか」「おはよう」とか言うとか向こうも「僕も元気ですけどどうですか」と。「何をして今日遊んだ？」とか会話ができるようになってるので、これを英語でやるといいのかなというふうに思っていて、そういう意味では1人1台パソコンの使い方の大きな、やっぱり英会話しないと駄目じゃないかなという気がしていますから、そういう意味では、1人1台の活用の方法が広がっていくと思っています。

それから、特に市長もおっしゃったんですけど、人としての生き方のシビックプライド、これは単に佐世保を愛し、そして佐世保に何ができるかということも大きなこと、大事なことですが、ひいては、人としての生き方にやっぱり自信を持っていただくと。誰からも非難されないような生き方をして、誇りを持って堂々と生きていくということが一番大事だというふうに思いますので、そういった意味では、しっかりと心技体とおっしゃいましたが、その心の部分、それから体力の部分、これも非常に大事になってくるのではないかと思いますので、学校教育においても部活動をはじめとする子供たちの体力をもう少し上げていく必要があるかなというふうに思ってます。

それからインクルーシブ的な発想、やっぱり個別にどういった子供たちでも一緒になってお互いに支え合っていくという教育の進め方というのは非常に大事だと思います。

昔はどちらかというと、差別されたような感じのところではありましたけれども、学校の建て替えあたりも考えていく中では、自由に子供たちとしていろんな個性、いろんな体の特徴がある子供でも、行ったり来たりして学べるようなハード的な環境整備もやっぱり必要になってくるかなと思いますので、学校再編に当たって、もしそういったことで改善ができるならば、どしどしアイデアとして取り入れていきたいなと思います。

それから個別的な学習ということでは、やはり裕福な家庭は塾に行ったり家庭教師をつけたりすることができるんだけど、それでない家庭は自分1人で勉強しなきゃならないというふうな環境にあるかと思うんですが、1人1台パソコン、令和の新しい取組によって、学習する機会は、やる気さえあれば、家で十分できるんだというふうな時代になりつつある。そういうふうに変わってい

かなければならないと思いますので、本当にこの令和の区切りの中で、やっぱり進めていくべきことは進めていく、変えていくべきところは大きい、ためらいなく変えていく必要があるのではないかと思っております。

長くなりましたけど、私からは以上でございます。

【朝長市長】

それぞれ御意見をいただきまして、ありがとうございます。

次に進む前に、私の今の意見を、皆さんそれぞれの御意見いただいた上での感想というような、そういうことも言うべきかなと思いますので、少しお話をさせていたいただきたいと思っております。

それぞれ委員におかれましては、非常に問題点をしっかりと捉えていらっしゃるって、さすがだなと、そういう思いをして今聞いていたところでございます。

中島委員からもお話がございましたが、今の先生方の多忙感ということについては、本当に大変な状況だと思っております。これを何とか緩和しなければいけないというようなことを皆さんそう思っていると思うんですが、どういう形でそれをやっていくかということについては、それぞれ学校の中での課題もあろうかと思えますけど、佐世保市全体としては、先ほど教育長がお話をいたしましたように、いわゆるチーム学校というような考え方をもっと基本に据えていく必要があるんじゃないかなというふうに思っておるわけでありまして。

そのために、今までやってきたことの中で、心のケアをするスクールカウンセラーとか、あと、いろんな、それぞれICTのサポートの先生であるとか、そういうようなことを含めましてやってきているわけでございます。

部活につきましても、外部コーチというのは、そういうものを含めて考えていく必要があるかなと思っておりますが、その中で特にスクールサポートスタッフということで、先生方の庶務的な業務というんでしょうか、そういうものをできる限り軽減をしていく必要があるというような御指摘をいただいたわけでございますが、今、一部学校において取組をしていると思っておりますが、これをもっと充実化をさせる必要があるのかなというふうに思っております。

それはどうしてもやっぱり財源ということが一つネックだと思います。本来であれば、そこは国がしっかりとカバーしてしなければいけないと思うんですが、そこまで国がいつやってくれるのかなというような感じがしているわけでございますけど、待つてはられないなという感じもいたしておりますので、佐世保市でできることを、その工夫をしていく必要があるんじゃないかなと思っております。

その中で、PTAを補助する事務員さんというのがいらっしゃいます。この方々の在り方というものを考えながら、今はPTAを中心ということなんですが、学校の事務というものをもっとこの方にお任せをしていくというような

やり方もあるんじゃないかなということで、今、教育委員会のほうでも検討を始めているようでございます。これはPTAの役員の皆さん方との協議ということもあろうかと思いますが、この制度自体は、全国的にも非常に珍しい、そういうことだということで、昔はいろいろあったのかもしれませんが、今残っているのが、多分、佐世保市だけじゃないかなというぐらいに感じになっておりますので、そこをうまく活用しながら、PTAのこともやれますよ、学校のこともやれますよというような、そういうふうな形のものになっていくことができるのかどうか、制度的にできるかどうか、そういう検討も進めていく必要があるんじゃないかなと思っております。

少しでも先生方の多忙感を軽減しながら、そして、忙しいということが一つの使命感ということにつながっているかもしれませんが、忙しいということは、逆に、もういいか、ということあたりにつながってくる可能性もありますので、やはり生徒を持ち続けるためには、適度な忙しさで、適度な休息が取れる、そういうようなことではないかなと思っております。そういう方向性で進んでいくことができればと思っております。

それから内海委員におっしゃっていただきました知・徳・体のことにつきましては、私も全く同感でございます。特に、知の部分につきましては、読書ということで、おっしゃっていただいたわけでございます。これは萩原委員、また、古賀委員もそうだと思います。

図書室の司書さんの活用ということ、それから、いわゆる図書の整備ということ、新刊図書も含めて、どのような形でやっていくかということだと思っております。

これまでどうしてもやはり図書館となると中央図書館を中心に物事が考えられてたんじゃないかなと思っております。やはり、中央図書館は全ての人が利用できる、利用しようと思えばできるんですが、やっぱり距離の問題あるいは時間の問題あれこれありまして制限をされる、なかなか活用できないというようなこともあろうかと思っておりますので、私の考えた中では、学校図書室の充実というのは、非常に大事なことじゃないかなと思っております。

そのためには財源をどう配分するかというようなことになってくると思いますが、市の財源の配分等々も当然でございますが、内海委員のほうから、民間の活力をとというようなお話もいただきましたので、非常にありがたいことだと思っております。

今、民間の皆様方から御相談を受けたときには、私は、できるだけ学校に寄附してくれませんかとお願ひしているところでございます。民間の皆さん方もそういう理解をしていただいて、「子供たちのためだったら、していいよ」というような、そういうお話もいただいております。

ぜひ内海委員におかれましては、その先頭を切っていただきながら、多くの方々にそういう重要性を説いていただくことができればと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それから、徳と体のことにつきましては、特に徳育につきましては、これはもう今いろんな中でやっているんですが、やっぱりなかなか形で見えてこないというようなこと、これはもう徳育のそういう徳というのはなかなか見えないというのが当然のことだと思いますし、すぐさま効果が出るものではないというふうに思っております。これはずっと続けていく中で、恐らく30年後、50年後ぐらいに、やっとその流れが出てくるんじゃないかなと思っております。

やはり今、いろいろと、昔ほど徳に対する力がなくなったということに関しては、戦後の一時、どうしてもそこに力が入ってなかったものが、やはり20年後、30年後、そして50年後、あるいは70年後となっているかもしれませんが、その時間を持って、その世代間の伝え方というのが弱くなってきたということはないかなと思っております。だから、これをそのままの形でやっていきますと、恐らくどんどんどんどん弱くなっていくんじゃないかなと思っておりますので、今、佐世保市が徳育に力を入れているのは、そういう意味合いでもって、今、目には見えないけど、将来、それぞれの皆さんたちが、先ほど委員にもおっしゃっていただいていたんですが、今は見えないけど、自分が大人になったときに、それを感じることでできること、そして子供たちに指導ができるという、そういうような長期的な考え方で、これはやっていかなければいけないんじゃないかと思っております。

いつの時代もそうだったと思うんですね。恐らく、300年前も500年前も1,000年前もそうだったと思いますよ。「近頃の若者は」という言葉がずっとあったと思いますので、私どもは、今そこで諦めないで、人間の中での伝えることの重要性、重要なことなんだという意味合いを持って、根気強く徳ということについて伝え続けていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

その手段としては、「道」という日本にはすばらしいものがあると思います。剣道もそうでしょうし、柔道もそうでしょうし、空手道もそうでしょうし、華道も茶道もそうだと思いますけど、そういう道というものを究めていくと、そこに何かが見えてくると思います。そういう教育の在り方というのも非常に大事なことなのかなという感じを持っているところでございます。

これらは萩原委員のお話の中にも、当然そこには含まれていると思うわけですが、今の子供にはやっぱり粘り強さが欠けているんじゃないかなというようなことをおっしゃっていました。私もそう思います。いわゆる知識にしても読書にしてもだと思えます。体育にしてもだと思えます。粘り強さが力になっていくんじゃないかなと思えます。それは続けていくことだと思います。習慣

性だと思っております。

内海委員が40分間分読書しているぞというようなことをおっしゃいましたが、まさしく、毎日続けるということではないかなと思うんですよね。毎日少しずつ続けていくことの中で、力の蓄えができてくるし、そしてまた、それが自分の身についていくことはないかなと思っておりますので、いかにして続けさせるかということではないかなと思いますので、そのところを教育委員会としてもしっかりと、これはまず、保護者の皆様方に保護者教育というような意味合いもあろうかと思えますけれども、そういうことも含めてやっていかなきゃいけないんじゃないかなと思っております。

習慣性、習慣を続けるということ、これが一番大事なことだと思っておりますので、私も、自分のことで申し訳ないんですけど、毎朝歩いております。毎朝1時間歩いておりますので、その体力というのは、やはりずっと体力を鍛えていくというよりも、それをずっと続けていくという中で、自分の健康というか体力の維持というものができているんじゃないかなと思っております。

スポーツもそうだと思いますよね。野球でもバスケットでも何でもそうだと思いますが、その繰り返しの中で習熟度が高まっていくということじゃないかなと思います。自分が強くなる、チームが強くなるということは、やはり繰り返し繰り返し、その中で力がついていくんだということを教え続けることは大事じゃないかなと思っております。

古賀委員にも幼児教育の立場からお話をいただきました。

インクルーシブ教育ということは非常に今から大事になってくると思いますので、やはり成長過程の中で、障害があらわれる方、やっぱり人間誰しも持っていることだと思いますよね。それをどういう形で受け方をしていくかというようなことが非常に大事なことだと思っております。

そしてまた、脳は進化するんだというようなお話もいただきました。まさしくそうだと思います。これも鍛えることだと思うんですよね。やっぱりそれも繰り返し繰り返し鍛えることによって、そこに成長があり、発展があるんじゃないかなと思っております。そういう意味で、やはり続けさせるということ。そしてそういう場をつくってあげるということが大事なことではないかなと思っております。

教育長にはうまくまとめていただいたわけですが、要は、強みを伸ばし、弱みを克服するという、これが一番の基本だと思いますので、まず、強みというものをしっかりと理解をしていかなきゃいけないと思うし、弱みということについて理解をしながらやっていくことだと思っております。

全人的な教育ということについては、これは日本型だということで、私も諸外国の教育ということがよく分かってないので言えないんですけど、しかし、比較

すると、日本の教育というのは独自性があるというようなことを言われますので、そのよさというのは残しつつ、しかし、そこであまり負担感がないような形も取らなきゃいけないというようなことも事実だと思います。ぜひ、そういう意味で、専門スタッフの活用をしながら、先生のカバーをしていくというようなことが大事なことじゃないかなと思っております。

それから、英語教育のことも、内海委員も、教育長からもございましたが、英語教育も、私も、やはり最近ではAIを使った英会話ということ、これは大事だと思っております。それをやって、それを必須で英語で毎日やりながら、これも繰り返したと思いますので、それはもう家、毎日習慣づければやれることなんです。その実践をやはり海外に出て行って、試してみるということじゃないかなと思っておりますので、いろいろなやり方があると思いますが、短期留学にしろ長期留学にしろ、あろうかと思いますが、まずは基本を身につけていくということが大事だと思います。

内海委員みたいに裸で飛び出したというような方法で英語を身につけるという方法もあろうかと思いますが、それは誰もできることではないかなと思いますので、できる限り、まずはここで今、1人1台パソコンの端末があるわけですので、それをうまく活用しながら、そういうやり方があるんだぞというようなことを教えていくということと、あとは本人のやる気だと思います。そういうやり方をさせていくことができればと感じさせていただきました。

いずれにいたしましても、それぞれ委員がおっしゃっていることは共通して大切なことだというふうに私も理解をいたしておりますので、今後、教育委員会のほうで、またまとめをされると思います。そのまとめられたことにつきましては、できる限りの支援をしてみたいというふうに思っているところであります。

私のほうから以上でございますが、次の「今後の佐世保の教育に望まれること」というテーマに入っていきたいと思っております。

今私がお話ししましたことについての反論も結構でございますが、それを含めまして、今後の佐世保の教育に望まれることということにつきまして、それぞれ意見を開陳していただければと思っております。

それではまず、学校教育の視点による意見ということで、中島委員、お願いします。

【中島教育長職務代理者】

失礼します。

教育長からもありましたように、今年度、来年度、令和3年、4年というのは、まさに学校教育の次世代ですか、学校の大転換が行われる年になると感じています。

先ほど紹介をされた中教審の報告の中でも、2020年代を通じて実現すべき、令和の日本型教育という姿が示されているわけですが、その先には、新たな未来社会、予測困難な時代に直面を当然していくわけです。

加えて、今回の新型コロナというのは、学校という組織の内外に対する閉鎖性とか脆弱性を露呈して、今後の学校のあるべき姿やシステム等について様々な教訓を残しています。

今までの学校を見直して、これからの将来をよりよくするためのターニングポイントになったのも事実です。

これまでと同じコンセプトの教育では、時代が変わったときに、子供たちに対しても対応ができません。これまでの学校教育の本質的なこと、大事なところは守りつつも、やり方はどんどん変わっていく。教育関係者の意識改革はもちろんですが、市民の方全体への周知や、あるいはその啓発というのは一層必要になってくるんじゃないかなと感じています。

今、それぞれの立場でやれること、やるべきことを着実に推し進めていくことが、今を生きる我々大人の責務であると感じています。

幸い、現在、本市の教育委員会では、教育長がよく言う子供たちが正しいと思える学校づくりというのを目指して、熱い志を持ったスタッフの力の結集によって、新たなステージをつくり出そうとしています。

例えば、ICTの活用による「スマート・スクール・SASEBO構想」、当初、様々な課題や困難性が心配されていましたが、着実に広がり、進んできました。

今年度もコロナ禍で、公式の学校訪問はできていませんけども、個人的に、先生方をお願いして、幾つかの小中学校を個別に訪問させていただきました。ひっそりと、邪魔にならないように、子供たちや学校の様子を見て回りました。

学校によって当然多少の進度差はありましたが、子供たちが普通にタブレットを使って、にぎやかに学習している光景というのが至るところに見られました。実際、先生方に聞いてみると、子供たちはあつという間だと。先生たちも、全員が一定の研修を終えて、もともと得意な先生たちが引っ張ってくれる。そしてまた、何よりやっぱりICTの支援員さんの力が大きいということでした。

まだまだ導入したばかりで、試行錯誤のところがあるようですが、eラーニング等の活用によって、着実に子供たちへの支援への個別化や教員の負担軽減になっているという話をたくさん聞くことができました、ほっとする思いでした。

また、もう一つの大型プロジェクトであります学校再編の推進事業。先週から一般を対象とした意見交換会が始まりまして、私も地域住民として参加をさせていただいているんですけども、当局の第一の方針である丁寧な合意形成、これ

に基づいて、本当に分かりやすい説明から終始和やかな雰囲気の中で、参加者から要望等を真摯に聞きながら、懇切丁寧な交換会が展開されている光景で、本当にほっとする思いでした。

本当によく考えられた、いろんな観点から総合的に考えられた、いわゆる最大公約数の事務局案を示しながらも、地域の意見等を尊重して、相手にボールを渡すというスタンスが、逆に積極的な意見を増やす雰囲気をつくっていたなと感じていました。

参加者からも要望としても出ていましたが、今後慎重に協議を重ね、継続しながらも、ある程度やれるという感触が得られたところは、当局がリーダーシップを取って、スピード感を持って推し進めて、先行事例とかモデル校として、広く発信、アピールしていくことも必要かなと感じました。

一方で、学力向上、不登校、公共施設の老朽化は、個人的には先ほどから話題になっています中学校の部活動の育成というのも気にはなっているんですが、こうした様々な課題も山積しているわけですが、それぞれ、今できる改善策を各界から一丸となって、地道に講じておられると感じています。

蛇足ではあるんですけども、そのチームとして、グーグルという会社ですけども、世界中で最高の職場というふうによく言われるんですけども、その人事システムの責任者がラズロ・ボックという方なんですけども、その方の著書の中で、チームの生産性を高める最大の要素は、心理的安全性であるというふうに言っています。すなわち、心理的安全性が高い組織というのは、ある程度の失敗が許されたり、助け合う風土があるといった安心感と、一方で、明確な役割分担や厳しく指摘し合える風土などの責任感、その両方を兼ね備えている点が特徴のようです。

いずれにしても、今後も適宜、市長部局と横断的に連携を取りながら、チーム教育委員会でチーム学校を支え、佐世保市の教育の質、生産性を高めていってほしいというふうに願っております。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、内海委員お願いします。

【内海教育委員】

先ほど話をしました自立した生徒の育成、そういう子供たちを育てるために、じゃあ先生方にどうあってほしいかということを考えました。

私が気づいたのは、人材育成への投資でございます。

この人材とはどなたかということ学校の先生方、教育委員に関わる先生方も含めてです。

教育委員になって、実は11階ですっといろいろ見せてもらおうと、大体3年か

4年ぐらいで、やっと名前を覚えてぐらいに今度現場に行かれて、代わられて、なかなか名前を覚えられないんですけど、どういう仕組みかなと思ったら、現場から教育委員会に行って、管理能力、管理することを勉強されてから現場に行って、教頭、校長になって。そういう仕組みなんだなと。だから、管理職を育成するというプログラムもあるというふうに思いました。

もう一つ、いろんな案件が出てきた中に、例えばこういうソフトを入れてこういうふうにやろうとしているという話があったときに、じゃあ学校の先生方がやるんじゃないで、ほとんど外注というか、外の力を借りてやっている。

私は経営者の立場なので、よくそれについて、幾らぐらいの予算をつけられるんですかという話をしたときに、私は以前は、極力、民間の力を借りてやったほうがいい、だから外注は大いに結構というふうに思っていました。

しかし、だんだん、教育委員を4年目、5年目、6年目やっていくと、いや外注もいいけど、その学校の先生方、また、すごく優秀な方がたくさんいらっしゃるということに気がきました。外注したら、早くできるかもしれない。仕組みもシステムも。しかし、あくまでも外注したということは、そこに技術者、考え方というのは、学校の先生方には落とし込みができないので、結局、何かあったらまた外注すると。それよりも、プロフェッショナルなコースがあって、その先生方はもちろん望めばですけども、いろんな勉強する場を与えて、先生方がその知識を身につけることによって、一つの佐世保市の財産になっていく。その先生方がまた、自分たちの仲間にその知識を広げていくということになると、一段も二段も佐世保市の教育の質が私はほんとに上がっていくような気がしました。

幾つかの例なんですけども、まず、ティーチングからコーチング。コーチング、皆さん方は聞かれると思うんですけども、自分は20年前から勉強して分かったのは、日本の教育はやっぱりコーチングじゃないと駄目なんじゃないかと。なぜかと言ったら、ティーチングとは、上から目線で上から教えて、分かったかと。じゃなくてコーチングの場合は引き出す。先ほど自立が出ました、自立させるためには自分で考える力を身につけなさい、自分で判断する力を。それを引き出すためのスキルというのは、コーチングスキルだということは、学校の先生方にこのコーチングスキルを勉強してほしいなというのがすごくあります。

もう一つは、SDGsの話なんですけども、実は、SDGsは私どもの会社も3年前から取り組んで、だんだん分かってきたことなんですけども、学校の教科書にももちろんSDGsたくさん出てきました。小学校、中学校で。最近はよく高校のほうからいろんなSDGsの話をしてほしいという依頼があるんですけども、話を聞けば聞くほど、ボランティアじゃできないんですね。ボランティアじゃできないので、お金の話になると「予算がありません」という話なるんで、予算はない、しかし先生方がこれを勉強されたら、絶対子供たちにいい教育でき

と思うと。思うことと実際行動することがなかなか歯車がかみ合いません。

どうでしょう。バッチをつけて、じゃあ学校の先生方に教科書を持って行って、SDGsとは何ぞやと、そういうことを子供に教育できる人たちが何人いるだろうかと思うと、本当に少ないと思います。

その中で、びっくりしたんですよ。これは佐世保コンベンションの「海風の国」という教育旅行体験プログラムというのがあります。えーっ、こんなものがあるんだと。実はこの中に、全国の学校にこれチラシ配るんですけど、佐世保に修学旅行来ませんか。目的はSDGsを勉強しましょうというプログラムなんです。そんなものがあるんだと驚きました。

例えば、フィールドワークで九十九島パールシーリゾートは環境コースです。環境経済でハウステンボス。それから平和コースで、針尾無線塔とか無窮洞。まちづくりで、佐世保観光コンベンションと書いてあるんです。こういうのは、プログラムにあって、実は、私どもの会社に相談がありました。一緒に取り組んで、今度、高校のほうにお願いして、このプログラムの撮影をするために、佐世保市の高校に協力してもらうんですけど、ああ、そうだ、佐世保市全体が、このSDGsに熱心に取り組んで、その結果、日本の中でSDGsに一番教育で取り組んでいる市だとなったときに、いやこれすごい広告宣伝なるなというふうに思いました。

それを取り組むためには、まず学校の先生方が、これを本当に勉強されたら、しかし、それに何が必要かとなると予算が必要だそうです。そういうのはほとんど予算に組んでないということで、今、うちの娘が担当しているんですけど、君はボランティアをしなさいという言っておるんですが、例えばそういうことですよね。ただ、SDGsは2030年ですよね。あと9年。私、教育委員になって8年だから、あつという間にあと9年が来るといふふうに思うと、当然2025年ぐらいにはSDGsのその次がやっぱり生まれてくるんじゃないかな。ただ、世の中それに向けてどンドン進んでいかないといけないということを我々大人、それからそれを子供たちに教育する一つのプログラムとしてはいいなと思ってます。

それから、インターネットと働き方改革が一緒になるんですけども、働き方改革することで、当然残業が減って、そうすると先生方の働く以外の時間は増えてくると。しかし、その働く時間が減って、しかし、先生方にはもっとやっぱり成長してほしいし勉強してほしい。これは望まない駄目だと思うんですけど、やっぱりそれに、オンラインで、365日24時間いつでも勉強できるプログラムというのをつくっていく。

これは、実は、自動車学校は、去年の12月に公安委員会、要するに警察庁が学科をライブで、オンラインでやっていいと。それから、ライブじゃなくて、オ

ンデマンド、要は録画したのを24時間いつでも見て、それを承認するというんです。だから自動車学校に学科を受けに行く必要がなくなった。

今現在、私どもライブでそれをやっていますけども、大学生なんかほとんどのライブの授業を受けてもらうようになりました。

次に、取り組んでいるのがこの録画型です。

そうすると、学科の指導員が、自動車学校で学科をする必要がなくなる。それを聞いたときに、質が落ちるなと思ったんです。今取り組んでいて、いや、逆に質は高くなると。なぜならば、録画するためにはうちのスタッフがきちっとした学科を録画して載せます。いつでも見られるようにします。そうすると、学科をする時間がなくなりました。それを何するかといたら、そこで、自分が勉強したいこと、個々のことの時間に使えるということは分かったんです。

お客さんにどうする。お客さんには評価を必ずさせていただきます。今の学科がよかったか悪かったか、満足したか、理解できなかったかというのをラインでリアルタイムにキャッチしていくと、質の高い教材を作ることができる。

それは佐世保市の教育委員会でもできるんじゃないかなと。ただ、私どもの場合学科だけど、子供たちの教育でもいいし、学校の先生方でもいいし、SDGsでもいいし、コーチングでもいいので、そのプログラムがあるとすごい、いつでも勉強できる、楽しく学べるという環境を提供できる、そのための投資がやっぱりあればなというふうに思いました。

過去、現在、未来ということを考えると、過去を我々生きてきました。それから、未来もまだもうちょっとありますけれども、しかし、子供たちには、今から50年、60年、その未来に向けて何か、道をつくればなというふうに思っております。

予算をつけて、そういう教育レベルを高める。佐世保市はきっと全国からすごい佐世保市、すごいということでいろんな方から取材を受け、佐世保に人が、また佐世保に子供がたくさん来てくれるとうれしいなと思って夢を描きました。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、萩原委員お願いします。

【萩原教育委員】

先生方がそんなふうにしていろいろ勉強されて、レベルが上がってきたら、本当に子供たちが幸せだなとお話聞きながら思いました。

今後の佐世保の教育に望むことと言われたら、私はどうしても自ら学んでいける人、そういう人を育てる、育てたいというふうに思います。

何か気づきがあったり、これ何かなというふうに思ったときに、自分で興味の

あることに会って、それを自分で調べて行って、何らかの自分自身でどんどんどんどん学んでいける、そういうふうな教育パターンがあったら、子供たちは大きくなるんじゃないかなというふうに思っています。

興味のあることに会わないといけないんですが、それに会うためにはやはりどうしても日々の先生方のそういった授業の面白さ、そういうもので、わあ、何だろうとか、実験をしたりして、子供の気づきというか、驚きというか、そういうことを体験させてあげたいなと。

それから、今度の教育でも地域の人々の協力が必要で、体験学習ということにもかなり重きが置かれているんですが、地域と一体となって、何かできないかな。

昔は子ども会があって、いろんなところに行ったりとか、施設の見学をしたりとかいろいろあったんですけども、リアルな体験として、田植とか、いもさしとかいろいろあったけど、だんだんそれが、田植もできなくなり、いもさしも清水ではしていたんですけど、ちょっと、また建て替えとなればまた変わるんでしょうし、だんだん子供たちにそういうリアルな体験というのできる機会が少なくなってきているんじゃないかなと、それもとても危惧するところです。

その点、ICTが出てきて、本当に普通とリアルでない世界ばかりの中で生きている子供は、やはりちょっとどうかなあと思うので、やはり本当の体験、自分の心とか体とか精神を使ったリアルな体験というのをぜひさせてあげたい。そのためにも、地域を使ってほしいとは思っております。

子供たちも将来は世界に羽ばたく子供でしょうから、まずは、自分の通っている小学校とか、自分の住んでいるまち、そういったところの歴史から、第一歩ですけど、歴史からどんどん入っていくのがいいんじゃないかな。

学校の成り立ちを調べてみると、とても面白い。清水にしてもとても面白いんですね。どんどん変わっていているし、場所が変わっているし。町内にしても小さな歴史はたくさんあるんですね。何か一つを取っても、どういうところが何でここにこういう名前がついたかとか、何でここにこういう橋があるとか、行幸橋とかありますよね。ああいうふうなことを知っている子は最近少なくなっていると思います。

史談会の人とか、地域の長老の人とかそういうことの活用で、実際にその場に行って、歴史とかを学ぶ。それは非常に大切なことじゃないかなと思っています。

各学校が70ぐらいありますので、それぞれの学校が、そういう学校自慢、我がまちの自慢とかいうことを、大会みたいに、リモートでもそれこそできると思っていますので、そういうことをしてみれば、もっともっと自分の足元の歴史から、じゃあ長崎はどなの、じゃあ日本はというふうに、だんだんと世界を広げていけるような、そういう足固めをしてあげたいなというふうに思っております。

これも家庭の教育にもよるんでしょうけど、博物館とか美術館とか、本物に触

れるということをしてできるだけしてほしいなというふうに思っています。

興味のあることに出会ったら、やはりどうしてもそれを調べていかないとけない。そのために、絶好のチャンスでICTの1人1台の端末がありますので、どんどんそれでいろんなことを調べていってもらいたいし、参考書、図書館の本で読んでいただきたい。

先ほどから本の大切さは出ていますが、何よりも、これを本当に大事にしないきゃいけないことじゃないかな。文章を読む読解力と自分の頭で考えるということ、考えたことは相手に伝えるというようなことは、本当に大切なことなので、小さい頃から鍛えていただきたいと思っています。

さっきビブリオバトルが出ましたけど、本も冊数は伸びるけど、だんだん大きくなるに従って本には遠くなります。何でかなと思うと、やっぱり本の面白さとか読み方とか、そういったことがあまり。司書さんがいれば、アドバイスができるんですけど、自分で読んでても、ただ冊数が増えているだけで、何かよく分からないというような部分もあるかもしれないので、本のビブリオバトルとか物事に対してのディベート大会、そういったものを実施するとか、自分が読んだ本の紹介を皆さんにクラスで教えてあげるとか。そういった何か小さいことですけれども、そういうことからしないと、子供たちは実際に伸びていかないんじゃないかなと思うので、ぜひぜひ、子供の読解力をつける努力をすべきじゃないかなと思っています。

地域に、この前、市政だよりも初めて、学校がこんなふうに変りますよというふうに出たのは、画期的なことだったようで、すごいインパクトがありました。あんなふうにいると学校がこんなふうになっていますよ、こういうふうに変りますよということを地域に発信していくということは、とても大切なことじゃないかなと思っています。

それと、うちは清水ですから、清水の学校だよりというのは回覧板に毎月入ってきます。それを読めば、学校がどういうふうになっているのかということがよく分かって楽しいものですから、全部行われているのかどうかよく分かりませんが、ぜひ、地域の方にも学校の内情を伝えてあげる。そういうふうな努力をしながら地域につながって行って、みんなで子供を育てていけたらいいなというふうに思っています。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

古賀委員。

【古賀教育委員】

先ほど萩原委員もおっしゃったように、情報の開示というかホームページも

どんどん更新してもらって、リアルタイムな情報が保護者にも届くといいなと思います。

ほとんど委員の方々が話をなさってくださいって、私もそれに共感なんですけれども、先ほど市長も、継続、続けることが大事というふうにおっしゃったんですけど、続けるのはなかなか難しいなと思っているので、そこもどういふような場をつくってあげたり、環境を整備してあげたらいいのかなと。

内海委員もおっしゃったように、予算があって、図書ボランティアの保護者の方も、学校によっては、予算をしっかりと取ってくださったり、PTAが予算をくださっている学校もあるんですけども、中には、やっぱり全然予算がなくて、保護者の方がおうちにある物を使われたりとか、別の方法で企業様から補助金を頂いて、活動費に使われたりとか、学校によって、ちょっとその辺も温度差がありますので、その辺も、予算ですけども、PTAからも予算をくださっているところもあるので、ボランティアの活動を十分行えるようにその辺も整備してあげられるといいのかなというふうに思いました。

それと、先ほどの連携の話ですけども、やっぱり学校によってもその学校というか校長先生によっても温度差がありますので、しっかりお話を聞いてくださったり、相談に乗ってくださるといふ学校もあれば、もう個人情報で何も伝えられませんかという言葉で終わる学校もあります。そこも温度差がありますので、できればその連携という意味では、しっかりと取らせていただけるような内容にしていればなと思います。

あとは、子供の学びもですけども心の安定があると学力にも体力にも継続にもつながるのかなと思いますので、しっかり、スクールカウンセラーもですけども、心の安定を取れるように。ある保護者様のお話で、自分の子のために、病弱児が通えるクラスをつくってくれたんですよ、今は元気に通えていますという保護者の方のお声もありますし、もう今日は学校に行きたくないと言って、家で1人であるという保護者様のお声もあったりとかしますので、やっぱり心の安定が全てにつながるのかなと思いますので、その辺も、しっかりと整えてあげられるようにできればなと思いました。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは教育長、お願いいたします。

【西本教育長】

今後の佐世保の教育に望むことということです。それぞれ御意見いただいたんですけど、個別案件については、それぞれ実現できるもの、できないものがございますが、いわゆる教育委員会としては、学校が楽しいと思える場所でないとい

けないのかなと思っています。

それは子供たちにとってももちろんですけども、保護者にとってもそう、そして先生や地域の方々にとっても学校が楽しいと思える。それぞれに居場所があって、やっぱり達成感が味わえるところではないのかなというふうに思います。

昨日できなかったけれども、今日は少しできたとか、そういったところで、一日一日に何か得るものを持って帰ってくれて、あるいはお母さん、お父さん、家族の方に報告ができる。地域の方も、最近学校変わったねというふうに言ってもらえるということにならないといけないのかなと思います。

それぞれの委員さんに言っていたこと、どれも本当にそうだなあと思えることばかりでございまして、先生が一番直接的な関係にあられる立場なんですけど、今までの先生の在り方というのが、絶対と言ったらおかしいですけど、先生が教えることがもう全てだったということなんですけど、先生も最近随分変わられてきて、やっぱり先生こそいろんなことを勉強しているんだというふうな思いの先生が本当に数多くなってきました。そういった方々が増えるとやっぱり子供さんも保護者も学校に行きやすくなる、居場所があるというふうになってくるのではないのかなというふうに思います。

その基本的な精神というのはやっぱり、一人一人の子供が自分のよさというか、可能性があるということを感じさせてくれる先生ということではないかと思っています。

そういったところからスタートすれば、学校が楽しくなってくるんじゃないかなと思います。

その方法の一つとしては、今、本当に大切なSDGsのことについてもしっかりと分かりやすく教えていただく。あるいは、自分より弱いと思える立場の子供達や人達にどういうふうに接するかということもきちんと教える。そして何より先生自身が研修をして、自分を磨くということ、そしてそれを邪魔しない教育委員会であるべきだというふうに思います。

変な話ですけど、ある町の話なんですけど、オンライン授業やっていいですかと学校から上がってきたら、「いや、やめてくれ」と止めたという教育委員会があったというふうに聞きました。学校の自発性を十分尊重するような教育委員会ではなければいけないし、逆にそれをサポートするのが教育委員会ではないかなというふうに思っていますので、今おっしゃったことを含めて、教育委員会自身が変わっていかなければならないんじゃないか。頭を柔らかくして、取り組んでいくことは何なのかということ認識すべきかなというふうに思っております。

そういう意味では、これまでの佐世保の教育の視点から、たくさんの課題を今日はいただいているんじゃないかというふうに思っています。

いつもですと一つのテーマで議論をしていただくんですけども、今日は全

方位的に、御意見聞かせていただいて、教育委員会としては、本当によかったと思っております。ありがとうございました。

【朝長市長】

ありがとうございました。

総括して西本教育長から意見をいただきました。

それでは私からも少し感想を述べさせていただきたいと思います。

佐世保の教育に望まれることというのは、非常に今までのこれも大きなテーマということだと思っておりますが、その中で、中島委員さんのほうから特に、学校再編の問題についておっしゃっていただきました。この説明会に出られて、非常に丁寧な説明もし、そしてまた、合意形成をしようという教育委員会のやり方ということについてお話をいただきまして、非常にいい形をつくってもらっているんだなというようなことを感じました。

そしてまた、これは今から非常に大事な学校再編ということだと思いますので、地域の合意形成というのは一番大事だと思います。もうこれありきでいきますと、どうしてもそこにいろんな意見が出てきて、衝突してしまうということになるかと思っております。時間をかけながら、そしてしっかりと対応をしていくことが必要だと思いますし、また、かけ過ぎると、今度は先ほどお話がありましたように、次の世代に変わってしまうということにもなりかねませんので、やはりスピード感を持って、一定までのところは、早めに取り組んでいくことが必要じゃないのかなという感じを持たせていただきました。

それから、心理的安全性という言葉を提供いただきまして、今、グーグルの話为例にとられたと思っておりますけど、非常にいい言葉だなということを感じさせていただきました。それが一番の生産性を上げるということにつながるんだということであるほどだなと思ったわけでございます。人間というのはどうしても自分の置かれた立場、そしてまた、将来どうなるんだろうと、これをやるとどういう形で進展していくのかなというような常に不安を持っているわけですが、そこをしっかりとサポートするようなことがあると、さらにやる気を持って、仕事をしていくということにつながるんじゃないかなと思っておりますので、ぜひ心理的安全性ということについては、教育委員会のほうでもぜひ捉えていただくことができればと感じました。

それから内海委員のお話の中で、アウトソーシングの話が出まして、外に出してもいいんだけど、しかし、学校の先生方の能力をもっと活用しようじゃないかと、いろいろ話をいただいて、まさしく、ここから4年あると思っておりますので、うまく、これはできることについては、自分たちでしっかりとやっていく。そしてそこにまた、新たな取組が出てくると。学校のことを知っているのはやっぱり先生方でございますので、そこで、自分たちの学校のシステムをつくると、あるい

はプログラムをつくるというようなこと、これは非常にいい形じゃないかなと思っております。

それからオンラインでレッスン、勉強していくよというようなこと、それぞれの先生方の能力を高める、いわゆる人材教育という面でお話してくださいました。これは今まで取り組んでないことだと思っております。それが当たり前の時代に入ってくるんじゃないかなと思っておりますので、今までは教育センターに集まって勉強会をやる、研修会をやるということだったと思いますけど、出られない先生が多いと思うんです。だからそこでやったことについて、それをオンデマンドで流すというようなこと、そういうようなことができれば、自分はそのときに出られなかったけど、なるほどこういうことやったんだなというようなことで、広がりができるんじゃないかなと思います。

今まではそれぞれ各学校の先生方が代表で出て行って、そして学校に帰ってフィードバックされたと思いますけど、どうしてもそこで、講師が言われることが全て伝わるわけじゃないということだと思えますよね。要点だけは伝えるということになるかと思いますが、やっぱりそういう実際にライブラリー、あるいはオンデマンド見るということ、聞くということができれば、24時間どこでも見られるよというような、そういうような形でつくることができると思えますので、ぜひ教育センターの在り方ということについても一つの材料としていただければというふうに感じました。

それから萩原委員の話の中で、体験学習、バーチャルの世界が非常に多くなってきているので、体験学習の下、リアルの世界というものを体験させたらどうかというようなこと、これは非常に大事だと思うんですよね。バーチャルの世界に浸っている子供たちが実際どうなんだろうというようなことをやっぱり知らせていかないと、空想の世界だけでは、リアルに生きていくことはできないわけがありますので、ぜひそういうリアルな体験をさせていく体験学習の場というのはできる限り多くつくっていく必要があると思えますよね。

学校それぞれの中で、恐らく、私どもが学校の頃には、外に連れ出して先生方が、今日は山に登ろうとか、川に行こうとか、そんなことがありましたよね。しかし、最近は、やっているかどうか分かりませんが、どうしても安全性を配慮してというようなことで、ちょっと臆病になってしまうというようなこともあつたりすると思えますので。保育園、幼稚園なんかは連れてらっしゃいますよね。学校もそういう時間をつくっていくことも大事かなという感じがいたしました。

それから、古賀委員の話の中で、幼・保・小の連携ということは、これはやはり幼保がやはりそういう風潮を持っておかないといけないと思えますので、幼稚園・保育園の先生方がいろんな小学校の先生のほうに教えをいただくという

ことは非常に大事なことだと思うんですけど、小学校の先生方はそれをあまり必要とされないというようなことにならないように、受入れをしっかりとしていただくことが必要ではないかなと思います。

ぜひ教育委員会としては、行事をやっていると思うんですけど、そこをやったり、学校それぞれの受け止め方があるのかもしれないし、そしてまた先生方が代わられると、それはうまくつながらないというようなこともあろうかと思いますが、ぜひそれぞれの近くの保育園・幼稚園と常に連絡が取れるような体制をつくっていただくことは必要じゃないかなと思います。

ぜひ情報の交換と、あとコミュニケーションをしっかりと取るということ、これが大事なことだと思っております。

それから教育長から最後まとめていただきましたが、やはり新しい佐世保の教育ということについて、今日、それぞれの先生方からおっしゃっていただいたこと、まさしく非常に大きな課題だと思っておりますので、それをどう具現化していくかということに尽きるんじゃないかと思っております。

子供に気づかせてくれる先生をつくるというような話もありましたけど、ぜひそういう先生方の在り方というんでしょうか、先生の御自身のそういう考え方というものをしっかりと植付けていただくということが必要じゃないかなと思っております。

そして、どうしても若い先生方がやはり社会経験が浅いというようなことがあろうかと思えます。ベテランの先生方はいろんな経験をしてあるんですが、大学を卒業してすぐの先生というのはいろんな御苦労があろうかと思えますので、そういう面で、若い先生方にはいろんな体験をしてもらうことが非常に大切なことだと思えます。

本来であれば、私の前からの持論なんですけど、大学卒業してから3年間は社会で就職をして、それから学校の再試験受けなさいというぐらいのことをやったほうが本当はいいのかなというような感じがするんですけど、これは佐世保市だけではできないことでもありますので、なかなか難しいことなんですけど、しかし、そういう経験をさせる、社会を知ってもらうということは、昨日までは大学の学生であって、今日からは先生と呼ばれるということも、ちょっと大変なことだと思えますので、それに追いつくような、そういう先生づくりというものをしていかなきゃいけないと思います。ぜひよろしくお願いを申し上げたいと思います。

以上、私の感想でございますけど、あと、もうしばらく時間がございますので、それぞれ委員のほうから、また、補足をしたいというようなことがございましたらお願いしたいと思います。どうぞ。

内海委員。

【内海教育委員】

先ほど言い忘れまして、実は離職率で、学校の先生方になぜ投資をと私は思ったかなんですけれど、会社やっていると、一番うれしいのは人を採用できたとき。人が辞めていく、こればかりはどうしようもなく。学校の先生方はどうなんだろうと、この佐世保市の小学校、中学校では、平成23年から令和2年まで379名の採用をされているんですね。じゃあ何人、何かの都合で辞められたかを調べましたら、たったの14人しか辞められてない。ということは、ほぼ、やっぱり学校の先生になりたいという思い、子供が大好きだということだからだろうと思うんですよ。こんなに離職率が、要するに辞めない人がたくさんいるんだったら、やっぱり投資すべきだよなというのを言い忘れておりました。すいません。

【朝長市長】

ありがとうございました。

ほかございませんでしょうか。

教育長、何かないですか。まとめてください。

【西本教育長】

本当に、子供たちが大好きで学校に来る、そうするといろんな現実に出会うという学校の先生。思った以上に忙しいということが分かっております。

非常に厳しい中で、よく頑張っているということで、私も敬意を表しているんですが、特に働き方改革の中で、部活動がよく言われるんですね。中学生、80時間超えがたくさんいらっしゃるの、特に中学校。部活動、私は物すごく日本型の学校教育の中で、大事な分野の一つだというふうに思っていて、結局、こういう言い方が適切かどうか分かりませんが、勉強で評価をできる子もいれば、部活で評価していただく子もいるわけです。皆さん、得意、得手、不得手たくさんある中で、やっぱり居場所づくりをしっかりと確保してある中では、部活動は大変重要な役割を持った分野だというふうに思っておりますので。

そういったところでは、今回、あまり大きな話題が、今後出てくるかと、なりませんでしたが、働き方改革の中の一つとして、部活動の先生たちの負担を軽減していくというのが大きな課題になってくるかなということも思いますので、いつかテーマを捉えて、アイデアを出しながら、取り組む課題の一つとして御議論いただける場をつくってもらいたいと思います。

離職率も、物すごく私としては気になっているところですが、むしろそれよりも、採用試験を受けないという現実があって、やっぱりもったいないな、本当はなりたいたらと思うながら、そこも気になるところでございました。

これは、県内の教育長会議の中でも、非常に話題になっているところでして、先生の成り手がいない。働く場所として環境整備はやっていけないといけない

ところだと思えますし、単に、根性、精神論だけではなかなか厳しいものもある
と思っています。やっぱり子供が大好きだという気持ちをなえさせないような
環境整備に努めてまいりたいというふうに思います。これからの令和の学校の
在り方として考えていきたいと思えます。御支援をよろしく願いいたします。

【朝長市長】

ありがとうございました。

ほかにございませんでしょうか。

【全委員】

ありません。

【朝長市長】

ないようでしたら、そろそろ時間も来ているようでございますので、今回の第
1回の総合教育会議を終了したいと思います。

委員の皆様には、大変お忙しい中にお集まりいただきまして、また、貴重な御
意見をいただきまして本当にありがとうございました。

今後とも学校教育、非常に大事だということはもう皆さんも認識一緒だと思
いますので、今日それぞれ御意見いただいたことを教育委員会としては、しっか
り捉えながら、そしてまた、継承しながら進めていく必要があるかと思いま
すので、教育委員の方から、今後も御意見賜りますように、よろしく願い申し上
げたいと思えます。

以上、最後の御挨拶とさせていただきます。どうもお疲れさまでございました。
ありがとうございました。

【松尾総務課長】

ありがとうございました。

では、以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了いたします。ありがとう
ございました。

----- 了 -----